

交通公園広場オープン

住宅の建設がすすむイースタウン(東町4丁目)ですが、11月20日より旭川電気軌道バス(60番線)が住宅街まで路線が延長されることになりました。

それにもないバスの巡回場が整備され、「交通公園広場」としてオープンしました。

この広場にある石蔵は元個人の所有で、長らく放置されてきたものですが、今では珍しい地元切出の軟石でつくられているため、内部を改修し、「交流館」として生まれ変わりました。

交流館はギャラリーや集会所として利用できるよう、照明や流し台が取り付けられ、一般の方へ開放しています。

利用料金は町外200円、町民100円(いずれも一人1時間)となっております。お気軽にご利用ください。お問い合わせは企画総務課 地域自治推進室 ☎82 2111(まで)。



まちの話題が満載! Town News まちの出来事

第35回町民総合文化祭



「風香り・大地豊か・人輝く・文化創造」をテーマに第35回町民総合文化祭が10月28日から11月3日まで、改善センター・文化ギャラリー・中学校体育館などを会場に開催されました。

芸術文化を楽しむ町内の子供から大人までの、クラブやサークル、個人が各活動で取組んだ成果を発表するこの文化祭は、10月28日の中学校体育館での児童生徒音楽の集いを初日に、10月29日から文化ギャラリーでの作品展示などが行われました。

11月3日(文化の日)には改善センターを会場に例年好評の旭川福祉専門学校生による人形劇・子供劇や町内サークルの発表会、文化ギャラリーでの口体験などが行われ、親子連れからお年寄りまで多くの方の来場がありました。



秋の火災予防運動

10月15日から10月31日まで秋の全道火災予防運動が行われました。

東川消防ではこの運動期間の防火啓蒙として、16日に全分団消防車による防火パレードを実施。午後からは消防団員が一般家庭の防火訪問で火災予防のチラシを配り、防火を呼びかけました。その後全職団員が西部地区コミュニティセンターで模擬火災訓練を実施。防火水槽からの中継並びに建物への放水を連携で行い、機敏な動作により万の火災に備えていました。

また、少年消防クラブでは17日から2週間、拍子木を手に、商店街や住宅街を夜回りし、「火の用心」・「あなたです。火のあるくらしの 見はり役」と大きな声で防火を呼びかけ、21日には婦人防火クラブと合同で西4号道々交差点付近で街頭啓蒙を行い、消火器の取扱い訓練や買物などの通行人に「火の元に十分注意してください」と火災予防を訴えました。



「写真の町」情報館

INFORMATION

写真甲子園2005参加選手の声

東京都立光丘高等学校 / 榎なつみさんより

北海道はでっかった。空は高く蒼かった。道路はどこまでも真っ直ぐだった。

花達は生き生きと咲き、虫達は元気よく飛び回っていた。

野菜は瑞々しく、田園風景は美しかった。

雨は冷たく、上がった後の虹はパワーをくれた。

そんな東川町は素敵だった。

そこに生きる人々はとても力強かった。

ボランティアの人達は温かかった。

スタッフさんは輝いていた。

そして、全国から集結したモモンガ達は熱かった。

写真と真正面から向かい合い、時に苦戦しながら「最高」を探求し、仲間と団結して唯一無二の「自分達」の写真を創り上げた。

楽しかった。本当に楽しかった。

写真を心から面白いと思った。

他人との触れ合いがこんなにも尊くて大事なんだと実感した。

今までは自ら避けていたけど、優しさがしみ出ている町民の方や、煌いている他の学校のみんなとは話がしたいと思った。結局あまり話し掛けられなかったけど...

でも、みんなの撮る写真は心地よい刺激と痛烈な

発見を沢山くれた。

自分では決して思いつかないであろう構図や発想は凄く面白くて、目から鱗が落ちてばかりいた。

北海道に行く前と後では、自分の撮る写真はきつと変化している。

技術はまだただけど、被写体に対する気持ちや、伝えたい事をより籠められるようになったと思う。

物を見る眼や考え方も、ネガティブだった以前よりは少しだけ改善された。

写真甲子園を通して、人間的に成長できた。

そんな楽しい思い出も刺激も変化も成長も、吉男さん(監督)とよっちゃん(選手)と、この広い世界の中で幸運にも出逢えた39人との絆と、雄大な北海道の自然のお陰。

ありがとう。

何度でも言いたい。

ありがとう。

悔しくて自分が不甲斐なくて泣いた事もあったけど、あの6日間で貰った感情と体験は、今も心の中で鮮やかに燃えてるよ。

あの、星が隙間なく散りばめられた夜空と、心を洗っていった清々しい風と、弾けたみんなの笑顔は絶対忘れない。

みんな とびっきり最高だった!!

